

地下水のリスク管理について

1 市内の建設発生土搬出先周辺の地下水質管理方法（案）

（１）具体的な管理方法（次年度以降）

継続監視の位置づけで下表のとおり実施する。

	A（現状）	B（新規追加）
基本的な考え方	・過年度の調査結果によって、基準超過が確認された井戸において、継続的に水質状況を確認する。 ・５年間連続して環境基準に適合した場合は、汚染井戸周辺地区調査を実施した後に、収束したと判断する。	・建設発生土が大量に搬出された先の周辺において、地下水のリスク管理を目的として実施する。 ・基準超過の有無にかかわらず、継続的に調査を実施する。
井戸の選び方	・前年度の継続監視調査井戸 ・前年度の汚染井戸周辺地区調査において新たに基準超過が確認された井戸（概ね一つの汚染範囲に代表として１つ）	・搬出先の地下水の流動方向下流側概ね半径 250m以内に存在する既存井戸（一つの搬出先に代表として１つ） ・他法令等により地下水質の管理が義務付けられている搬出先を除く。
調査対象項目	過年度の調査で基準超過した項目	ヒ素

（２）今年度の取組み（案）

次年度以降は、（１）の考え方で整理する予定だが、現時点で取り組めることとして、先行して、今年度から市内搬出先周辺で地下水調査を実施する。

2 市内全域の地下水質管理方法（案）

（１）具体的な管理方法（次年度以降）

概況調査の位置づけで下表のとおり実施する。

	A（現状）	B（新規追加）
基本的な考え方	・本市の 90 連合町内会をランダムに 4 分割し、そこから 1 つの地域を選び、<u>4 年</u>かけて全て調査 ・1 連合町内会毎に 1 井戸を選定する（22～23 井戸/年）	・本市の 90 連合町内会をランダムに 4 分割し、そこから A の地域を含んだ 2 つの地域を選び、<u>2 年</u>かけて全て調査 ・1 連合町内会毎に 1 井戸を選定する（44～46 井戸/年）
井戸の選び方	・これまで未調査の井戸や近年調査を実施していない井戸を優先的に選定する。	
調査対象項目	・地下水の水質汚濁に係る環境基準 27 項目	・ヒ素

3 その他（地下水に関する情報交換）

周辺自治体の地下水質状況、搬出先に関する各種規制 等